

被災者支援住宅相談ボランティア開始される

震災発生から 2 週間、復興に向けての活動がスタート

震災発生から 2 週間余りを経過した被災地では様々なボランティア団体或いは個人による被災者支援活動が展開されています。

その中で、JIA も石川県の要請を受けて地元建築諸団体と共に被災者支援住宅相談ボランティア活動を開始しました。

相談活動は、4 月 7 日(土)より開始されましたが、この活動には北陸支部による現地災害対策本部を JIA 災害対策本部が支援する形で取組みが進められています。

被災度の大きかった、穴水・輪島市・輪島市門前地区で相談窓口

相談会場を設置しているのは被害の集中した穴水・輪島市と輪島市門前地区の 3 地域に相談会場がおかれまして。

初日の 7 日は、地元北陸支部メンバーの車に同乗会場の一つとなる門前地区に向かいましたが、近づくに連れてその被害の大きさに改めて衝撃を受けました。

震災直後の状態から余震による被害の拡大

発生直後の 1 週間前に来たときにも門前地区は地域全体が応急危険度判定により赤紙(危険)黄紙(要注意)のシールが軒並みはられていて被害の大きさを物語っていましたが、その後 1 週間余りの間に続く余震の影響により、更に建物の傾きや変形が増すなど一段と危険度が増してきています。

本震は当然ですが、余震の影響の大きさもまざまざと見せつけられるものでした。

石川県重要文化財の住宅にも大きな被害

途中、石川県の重要文化財に指定されている北前船の間屋であった「角海家住宅」を見ましたが、歴史をもつ見事な木造建築は大きな被害にあっていました。

その姿は土地の歴史を紡いできた家屋だけに一層の悲壮感を漂わせています。

勿論回りの民家も同様に大きな被害を受け、人もまばらで心配されている地域コミュニティの崩壊を現実に関心させるものでした。

相談会場は旧門前町役場

相談会場の一つである旧門前町役場(現支所)について、みると役場の建物もそこかしこに被害のがあり、内部も物が散乱する状態で騒然としています。すぐ裏の施設は避難所になっているという物々しい雰囲気です。

職員のほか、自衛隊や赤十字の職員、民間ボランティアなど様々な人が出入りしています。建築団体による相談は小さな会議室をようやく確保してスタートすることになりました。まず相談を受けるのは、石川建築士会、石川事務所協会と JIA メンバーが担当、

相談の内容は様々ですが主には、被災状況に対する判断、安全性の検証、今後具体的にどうしたらよいのか、撤去の時期はなどという内容のものです。

相談者は避難所に入っている方も多く、また、地区の特色として高齢者世帯が多いことからどうしたら良いか皆目わからないというご相談です。

結局、窓口相談では事態が掴めないのか殆どで、いきおいチームを組んで現地に出向くことになります。

現地相談に出向き窓口は空っぽ

当初は、スタッフからも対応は十分と書いていいましたが、地区に放送が流れたこともあって、昼近くになってくると切れ目のない相談が続きスタッフも大忙しになってきました。

一方、最も相談者が殺到すると予測された輪島市は、午前中の相談が1件のみという状況が報告されました。

(後日分かったことですが、輪島市では既に地元の建築士の方々を中心にボランティアで相談が動いていたこと、それが市の施設で行われていたことなどから二つの相談窓口が出来てしまったという非常時の情報不足、連携ミスが原因していました。)

そこで、急遽第一陣として早急に現地入りして頂いた関東甲信越支部・新潟地域会(上山)寛代表以下7名が参加)のメンバーに次々に門前に回って頂き、地元石川地域会メンバーや他会の相談員と共にフル稼働で現地相談に取り組みました。

また、急遽相談窓口が開かれた穴水も10件程度の相談が寄せられているとの情報が入りました。

相談はより丁寧に、現地相談も時間をかけて-応急危険度の意味から説明

災害後の相談の難しさは、どこも同じで応急危険度判定はあくまで余震に対する警戒を含めた緊急避難措置であり、その後の復旧にいたる建築的な判断とは異なるものですが、どうしても被災者にとってはそのイメージが強いためそれを取り除いたところから相談が始まります。相談員は不安を取り除く意味も含めて全員根気よく丁寧に聞き取りをしています。

一端現地に出向くと思いのほか時間がかかります。十数人の相談員も全員が出払っている状況も出てきました。

歴史を持つ古民家に関する相談飛び込む

そうした相談が夕方まで続きました。ようやく初日の相談が一段落したころ、突然築150年の民家に関する相談が飛び込みました。

JIAメンバーが関心を持つテーマです、早速聞き取りの後、相談メンバーが2台の車に分乗して相談者と共に現地に向かいました。

最後の相談になりましたが、予想通り相談窓口終了時間が過ぎても戻りません。メンバーが戻ったのは終了時間から1時間半位過ぎてからでした。

大切にしたいというアドバイスをしたようで、相談者ももう一度考えなおしてみる

ようになったようです。
こうした状況で一日目の活動が終了しました。

更に増える門前地区相談者-二日目の活動

翌日の 8 日(日)、門前地区の相談は前日にもまして増えてきました。それに備えたシフトを組みましたがそれでも足りない状況。急遽輪島市相談メンバー全員が門前地区にシフト換えする臨戦態勢を組み対処しました。この日も相談時間内には収まらず時間延長しての対応になりました。

時間が経過して被災者が自宅に戻り始めると被害の大きさは拡大してくるのが地震災害の常です。これからの復興に向けてまだまだ多くの局面と時間が必要になりそうです。

ボランティア相談とは別に、今後の被災者復興にどこまで支援していけるのか大きな課題を持ちながらの活動スタートになりました。

ボランティア募集に関する報告とお礼

(災害ファンドへの支援金募集の継続について)

全国の JIA 会員に向けて相談ボランティアを募集させて頂きました。早速各地域会を中心早速ボランティアのお申し出が多数寄せて頂きました。

お蔭様で、当初募集させて頂きました 4 月 15 日までのボランティア要員については現地対策本部で考えていたスタッフが整いましたので、募集をとりあえず終了させて頂きます。皆様のご支援に心より感謝申し上げます。

なお、活動資金とする災害ファンドについては引き続き支援金募集をさせて頂きますので、今後の支援拡大に備えて皆様のご協力をお願い申し上げます。

急報 三日目を迎えた門前地区での相談は、JIA と事務所協会のみとなり、益々対応が厳しくなります。被災判定も進まず相談者の悩みはましています。相談件数も午前中だけでも 30 件を越えています。ほとんどが現地相談を伴う状況で明日以降も相談が続くことが予想され現地対策本部も踏ん張りが必要です。

記 災害担当 参与 高野孝次郎